

## 南九州税理士会会長賞

### 税金に感謝

有明中学校 二年 池田 智陽

僕は、今まで税金に関心がなく、税金について難しいイメージをもっていた。今回、税の作文を書くにあたり、いろいろ調べ、少しは税金のことがわかり、税金の大切さがわかった。

僕たちが納めた税金は、みんなの安全を守る警察・消防・道路・水道の整備といった「みんなのために役立つ活動」や、年金・医療・福祉・教育など「社会での助け合いのための活動」に使われている。そのために必要なたくさんのお金をみんなが出し合って負担するのが税金である。つまり、税金は、みんなが社会を支えるための「会費」といえる。

おやつを買ったりするとき、僕たち学生でも、消費税をもの値段に上乘せしてお店に払っている。そういう点では、僕たち学生も国の税収に貢献していると思うが、その税金を払っているだけのサービスを受けているという実感がわからなかった。「税金なんて、身近に考えられない」と思っていたが、僕にとって身近なことがあったのだ。それは、社会保障である。僕が五才の時、両親が離婚し母子家庭となった。僕たち家族は、税金に支えられて生きていたのだ。「就学援助」といって僕の学用品や修学旅行費、給食費、医療費などが税金でまかなわれており、生活が支えられているそうだ。また、周りの子と同じように学校に通えたり、当たり前のように食事をしたり、楽しく学校生活を送れているのは「児童

扶養手当」をうけているからだと知った。児童扶養手当も税金でまかなわれている社会保障制度である。今まで税金に関心がなかったが、僕が不自由なく生活を送れているのは多くの人が払っている税金のおかげなのだと思った。また、幸せな生活をおくれることに感謝している。感謝の気持ちを忘れずに、夢を叶えるために取り組めるすべてのことを精一杯頑張ろうと思う。

社会の変化に合わせて、税のしくみも考えていくことが必要になる。少子・高齢社会では、お互いが支え合っていくことが今まで以上に必要になり、税金の集め方や使い道をしっかり考えていくことが大切になってくる。僕たち国民が税金を納めることで、自分のためだけでなく、国民全員が暮らしを向上させることができる。僕たち学生は、税を納める立場というよりは、今は、その税金を使わせてもらっている立場だ。僕たちは税金のおかげで学校に行くことができ、進路実現に向けて頑張ることができている。だから、将来は自分の進路を実現して、社会人となったときにしっかりと税金を納めて、今まで支えてもらった分の恩返しのためにも誰かの支えになっていけばと思う。一人ひとりがしっかりと納税することで、みんなが支え合って日本の暮らしをより豊かにしていっている。改めて、日本国民全員がお互いに協力していかなければいけないと考えさせられた。